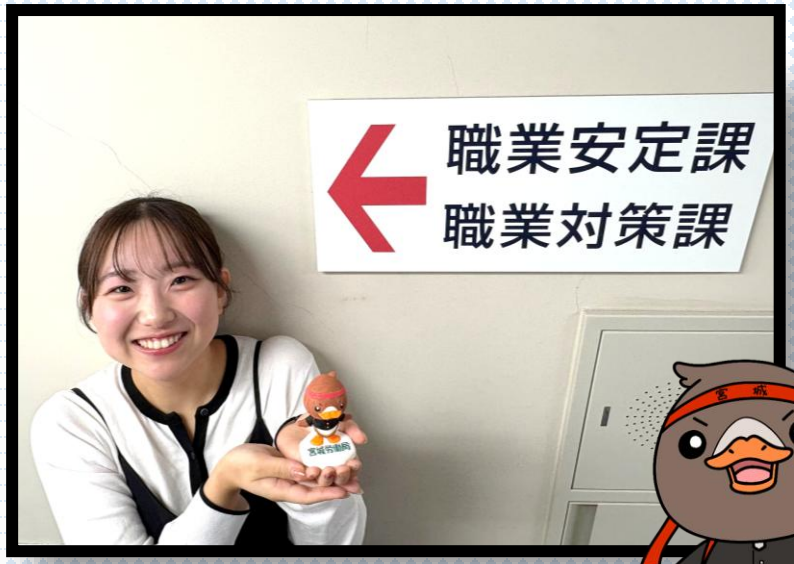
先輩職員インタビュー

令和８年度採用

厚生労働事務官（共通）（国家一般職）





Ｑ１ 労働局を志望した理由は？

大学で看護学を専攻し、人々の健康や生活を支えることについて学びました。実習等を通して様々な方と関わる中で、健康だけでなく、「働くこと」や「暮らしの安定」が生活の基盤であることを実感し、雇用や労働の面から人々を支える仕事に関心を持つようになりました。労働局では、就職支援や働きやすい職場環境づくりなどを通じて、一人ひとりが抱える課題の解決を支援することができます。そうした支援を通じて多くの人の生活を支え、地域社会に貢献できる仕事に魅力を感じ、労働局を志望しました。

Ｑ２ 入省前後でギャップはありますか？

入省前は行政機関ということもあり、堅い雰囲気の職場をイメージしていました。しかし実際には、上司や先輩職員との距離が近く、分からないことや困ったことがあれば気軽に相談できる職場です。業務で悩んだ際には丁寧にサポートしていただけるため、安心して仕事に取り組むことができています。また、休暇も取得しやすく、月に1回程度は休暇をとってリフレッシュの時間に充てています。仕事と私生活のメリハリをつけながら、日々やりがいを感じて働くことができています。

Ｑ３ 休日の過ごし方を教えてください！

休日は友人とご飯に行ったり、ショッピングへ出かけたりするなど、自分の好きなことをして過ごしています。日々頑張っている自分へのご褒美です！また、日程が合うときには職員同士で集まり、バレーボールをして体を動かすこともあります。業務以外でも職員と交流することで、普段は関わることの少ない職員とも親睦を深めることができるので、交流の輪が広がる機会になっています。

Ｑ４ メッセージ

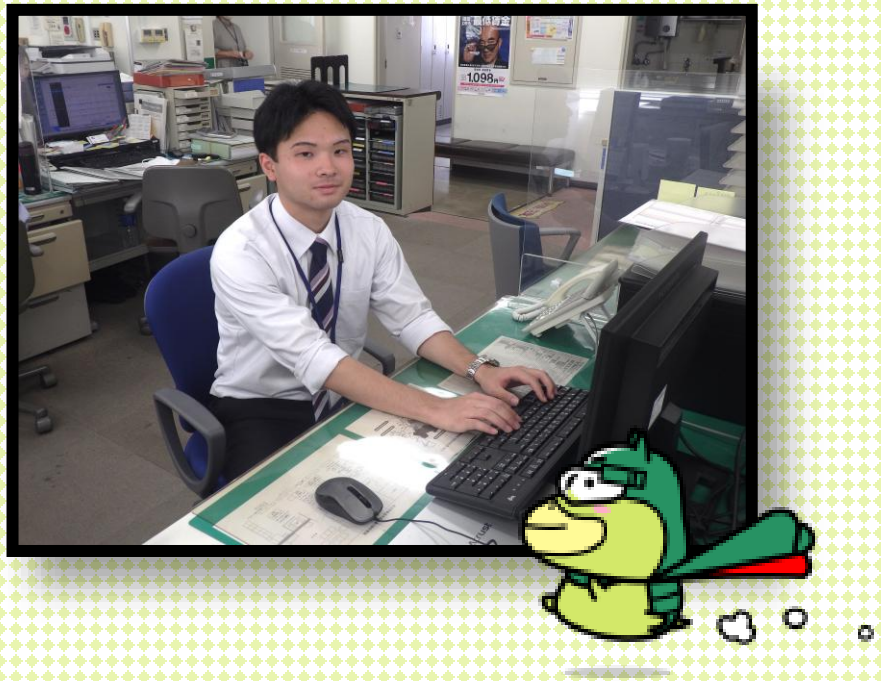
勉強していく中で、不安や焦りを感じることもあると思います。しかし、これまで積み重ねてきた努力や経験は必ず自分の力になります。適度に息抜きをし、体調管理に気をつけながら、一歩ずつ前向きに取り組んでください。皆さんが持っている力を十分に発揮できることを願っています。

宮城労働局で皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています！

先輩職員インタビュー

令和８年度採用

厚生労働事務官（基準）（国家一般職）



Ｑ１ 労働局を志望した理由は？

大学時代に労働法ゼミに所属していた為、培った知識を活かしたいなという気持ちと漠然と公務員になりたいという気持ちがありました。
いろいろな企業や他公務員の説明会を聞いたところ、労働局の方が推していたワークライフバランスに魅かれたことが理由の一つです。

Ｑ２ 仕事で苦労したことはありますか？

労災請求をした被災者の方が納得していただけるような説明をすることです。労災請求の中には、被災者の方の期待に沿えず労災として認定できないものがあります。認定基準を説明し、仕事中に発症した傷病であっても労災の対象とはならないことがあることを説明しても中々納得していただけないこともあるので苦労しますが、法令や認定基準を繰り返し読んでより深く理解し丁寧に説明できるように努力しています。

Ｑ３ 労働局に入ってよかったことを教えてください！

ワークライフバランスが整っていることです。
部署にもよりますが、残業時間もそんなに多くもなく有給休暇も取得しやすい環境にあるので、プライベートも充実させることができます。
仕事内容でもわからないことはすぐに聞ける環境にあるので、不安や疑問が残ったままになることがないのでストレスも少ないです。

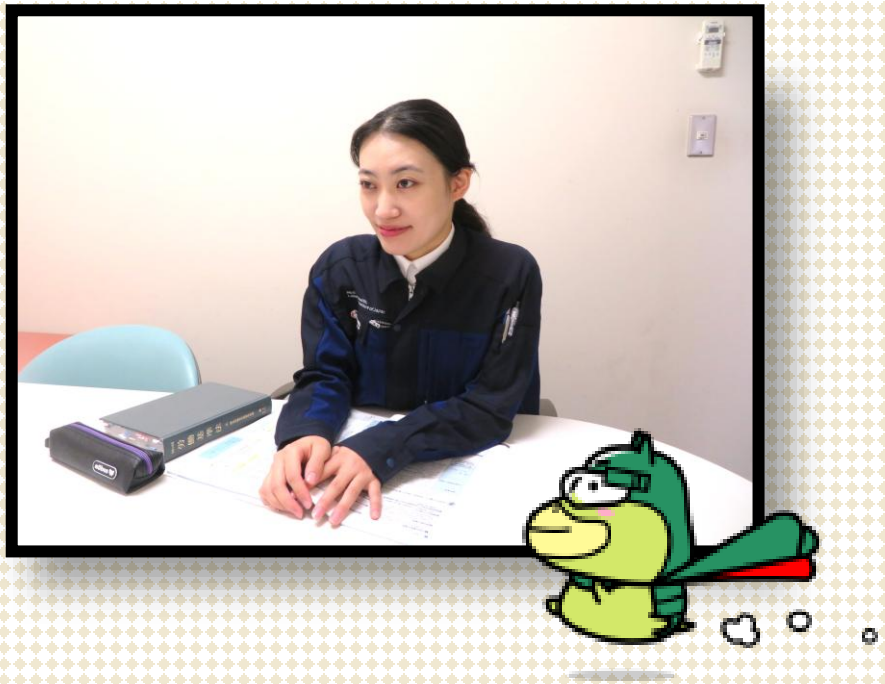
Ｑ４ メッセージ

受験勉強に追われ不安な日々を過ごしていると思いますが、追い込みすぎず気ままに勉強頑張りましょう！膨大な試験範囲を網羅的にやるのは難しいうえに、不安が募る一方だと思います。意外と大丈夫なので日々ニュースを見て、やりたくなったら勉強するくらいの気持ちでいきましょう！
勉強も大事ですが、社会人になってからではできないことを今のうちにやっておくのも大事です！

先輩職員インタビュー

令和８年度採用

労働基準監督官（国家専門職）



Ｑ１ 労働局を志望した理由は？

大学時代に社会学を学んだ経験から、働くことが生きがいにつながる一方で、労働に関する悩みを抱えている人がいることに気づき、労働者の悩みに寄り添い、直接労働問題の解決に取り組む仕事をしたいと考えるようになりました。就職活動の過程で、「働く」ことを支える労働局の仕事に関心を持ち、労働基準監督官の存在を知りました。労働条件や作業環境が法律に則っているかを確認し、使用者に対して必要な指導や助言を行うことができる点に魅力を感じ、労働局の業務の中でも労働基準監督官を志望しました。

Ｑ２ 職場の雰囲気は？

労働者の方や会社の方などが数多く来署するため、署内は活気があります。日常業務においても、職場以外の方と会話をする機会が多いと感じています。対応に困ることもありますが、小さな疑問点であっても、上司や先輩が親身に聞いてフォローしてくださります。手厚いフォローがあるからこそ、新しい業務にも前向きに挑戦することができます。

また、監督官は一人で業務をこなすことが多いですが、全員で事案を共有しながら方向性を話し合う機会が多くあります。アットホームな雰囲気で、風通しのよい職場です。

Ｑ３ 入省前後でギャップはありますか？

入省前は、法令の知識を覚えれば業務をこなすことができると思っていました。しかし、入省後、先輩方の臨検監督に同行し、個人の人間力が問われると気づきました。先輩方は、会社の方に法令の内容や法令遵守の必要性を丁寧に説明し、違反状態を改善する過程についてもフォローしていました。その姿を見て、法令遵守の必要性を理解してもらうためには、相手方とコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことが大切なのだと感じました。私も信頼される労働基準監督官になれるよう、相手に寄り添い、臨機応変に対応したいと思いました。

Ｑ４ メッセージ

労働局の仕事は多岐にわたり、どの仕事も国民の生活に大きく関わります。なかでも、労働基準監督官は、労働条件や安全衛生管理のエキスパートです。局内には知識や経験が豊富な労働基準監督官がたくさんおり、熱意あふれる指導を受けながら成長できます。専門的な知識を身につけながら成長したい方にぴったりの仕事です。興味のある方はぜひ、説明会などに参加してみてください。一緒に働ける日を心よりお待ちしています。